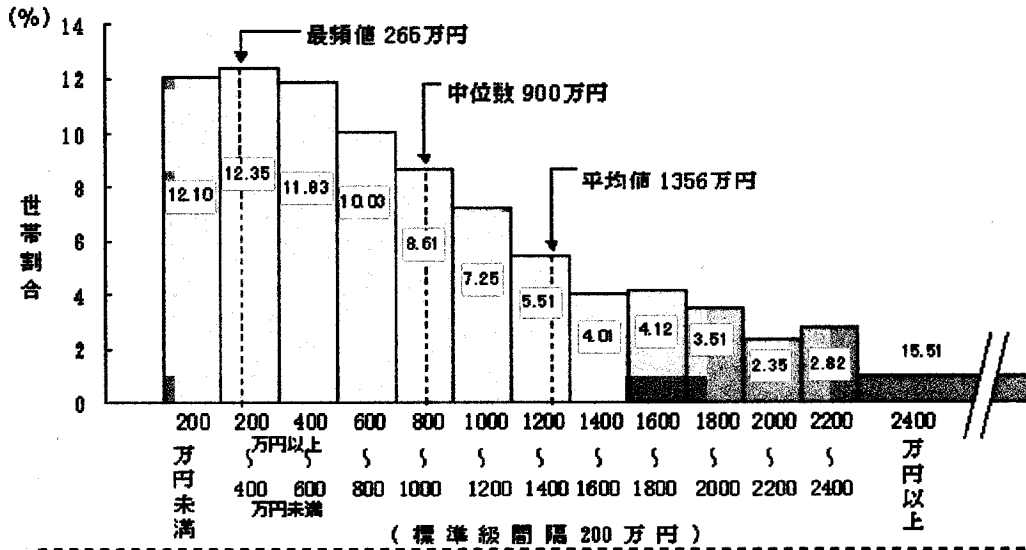


貯蓄現在高階級別世帯分布（勤労者世帯）



勤労者世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、平均値 1356 万円を下回る世帯が全体の 66.5 % を占め、貯蓄の低い方に偏った分布となっている。また、貯蓄現在高の中位数は 900 万円、最頻値は 265 万円となっている。

平均に重大な意味があるのだろうか？

増差も平均でいわれ、比較されるけど

個人課税部門の調査等状況

	調査等 件数	申告漏れ (非達) 件数	申告漏れ 所得金額		追徴税額 (含加算税)	
			百万円	1 件 当たり 万円	百万円	1 件 当たり 万円
調査等総計	123,125 115,048	90,839 91,260			43,345 37,599	35 33
所 実地調査	23,437	20,980	149,710	639	33,184	142
	20,081	17,471	122,166	608	27,287	136
税 簡易な接触	97,915	67,731	87,631	89	4,341	4

上のグラフは総務省統計局のHPにあったものです。新聞などで、平均貯蓄額が千三百五十六万円とかいわれると、「うそやろ・・・」と思うのですが、分布状況考慮し

た上のようなグラフをみると、納得です。実感は数が多いほうになるからです。二百万から三百万の層が一番多くなっています。一方、下の表は大阪国税局のHPにあった記者発表資料です。タイトルは「平成25事務年度における個人課税部門の調査等状況」です。ここでは平均増差が六十八万となっています。「そんなに高いかな？」というのが実感ですが、そこは聞

のなか・・・貯蓄額みただい、詳細は発表されないから、わかりません。この前の署長交渉で、職員、幹部、納税者、市民が認識誤りを起こさないような数字を発表をすべきたと意見を言う予定でしたが、時間不足により、言えてません。習慣、あるいは意図的に、調査額など事績は「平均」による、職員間、部門間、署間、局間の競争が組織されてきました。前年対比主義も同根です。情報公開の時代にはちゃんとした数字が公開されてしかるべきだと思います。